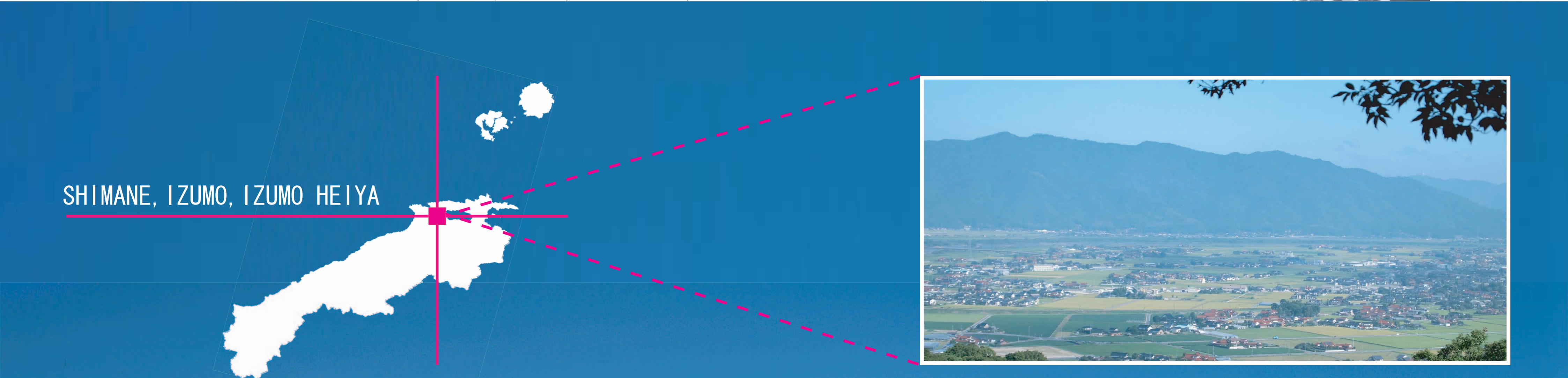
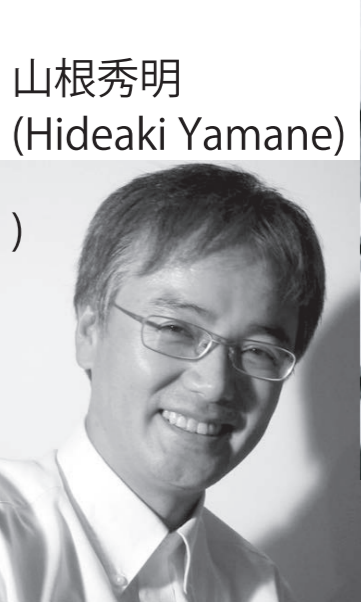




島根県出雲地方の築地松のある風景は、この地方独特の散居村景観で、貴重な景観資産として全国的にも珍しい。大雨による浸水から屋敷を守るため、住居の周囲に築地(土手)を造り、その補強に樹木を植えたのが始まりである。そして、その樹木はこの地方独特の厳しい北西の季節風を防ぐにも役立った。川の堤防工事がすすみ、洪水の心配が少なくなると、防水機能としての築地の必要はなくなり、防風機能のみになり、南側と東側の築地や樹木が無くなり、西側と北側のみになった。美しく刈り込んだ築地松風景は、150年の歴史をもった大切な歴史的遺産である。

Scenery with the Tsujimatsu in the Shimane Prefecture Izumo is nationally precious in peculiar scatter spectacle to this provinces. It is a start to make the reclaimed land (bank) in surroundings in the dwelling to defend the residence from the flood by the heavy rain, and to have planted the tree in its reinforcement. The tree was useful to prevent the monsoon in the northwest that was peculiar to provinces and severe. When the embankment construction of the river proceeded, and the worry of the flood decreased, the necessity in the reclaimed land as the waterproof function was lost. It became only wind preventionfunction, the reclaimed land on the south and the east side and trees disappeared, and it positioned only on the west side and the north side. The reclaimed land pine scenery beautifully trimmed is an important, historical inheritance with the history for 150 years.

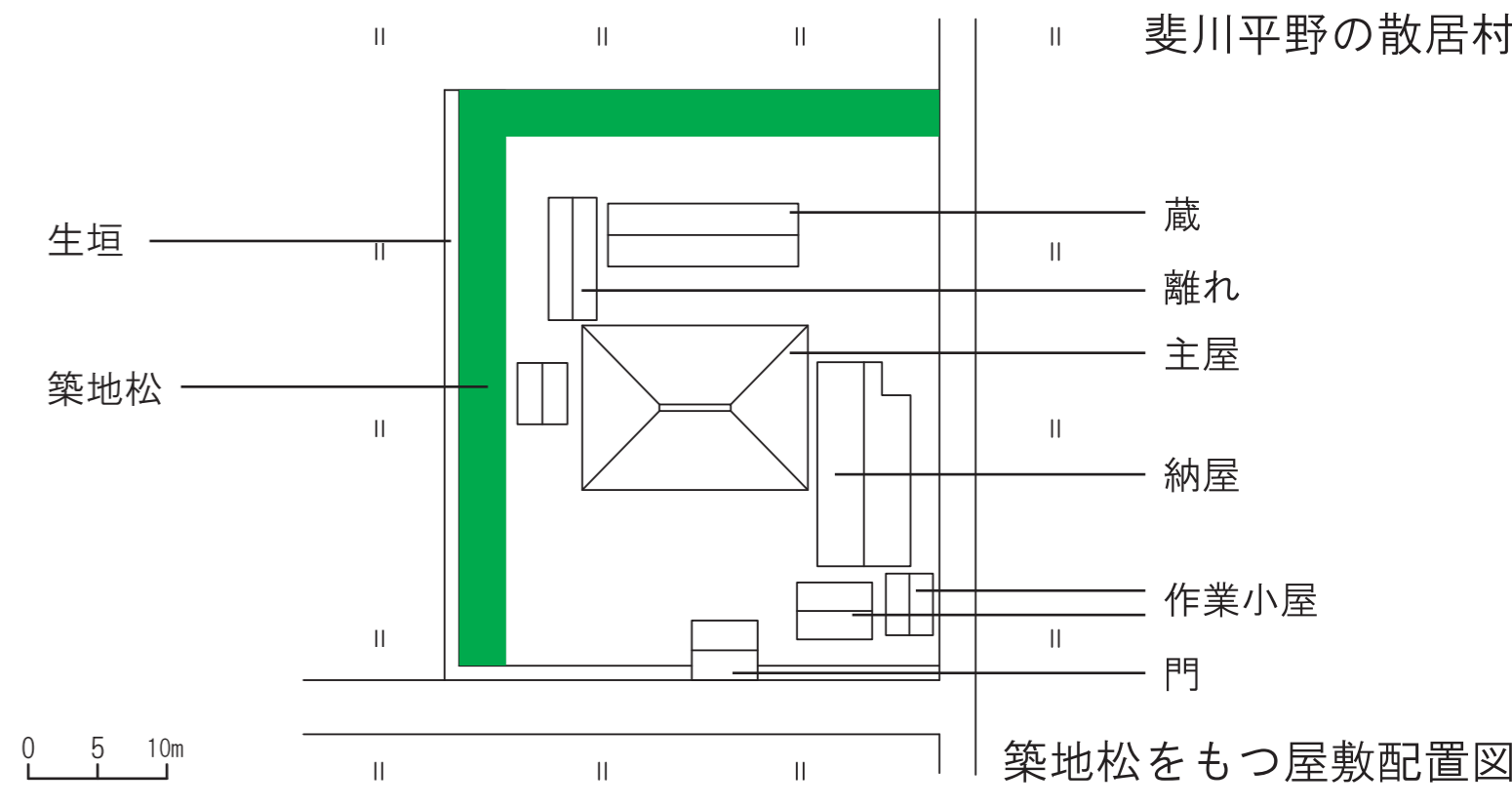


築地松分布鳥瞰図



■風土が育む造形「反り」

出雲地方には日本の他の地域では殆ど見られない独特の形に対する感性が育まれている。それは、この地域に生まれ、長らく住んでいる人々にとって殆ど意識されない無意識下の感性である。その感性とは「反り」を心地よいと感じる感性である。民家の屋根の棟、石垣の先端、そして生垣の先端などにも見ることができ、極、当たり前のこととして形作られている。また、古代の古墳の形にも見て取る事が出来る。出雲地方を代表する古墳の形態に四隅突出型墳丘墓があるが、これも平面形として四角形の四辺がそれぞれ反っている。このような感性は出雲の風土によって作られてきたものだと思う。その風土とは日本海側の地域に共通の冬、北西からの厳しい季節風が吹き荒ぶ自然環境に育まれたものであり、朝鮮半島に近く古代から人的及び文化的な繋がりが作り出したものではないかと思われる。「反り」は決して機能的な意味を持つものではない。たとえば斐川平野(出雲平野)の散居村の佇まいに見られる「築地松」と呼ばれる防風林のようにその土地の気候特性から機能的に形成されたものもある。しかし、その形は同じような機能的意味から作られた富山県の砺波平野の散居村の防風林とはまったく違い非常に幾何学的である。そこには、「反り」を育む感性が働いている。このような感性が現代の感覚に合い難く薄れていくのは残念な気がする。



民家の屋根の棟



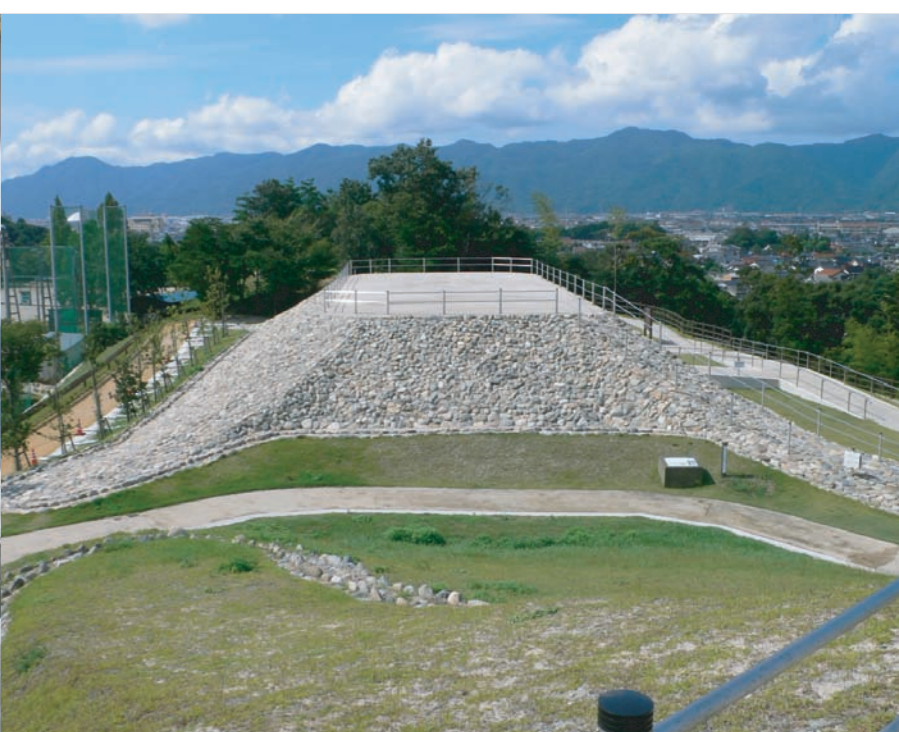
民家の生垣



古民家の屋根の棟



石垣



四隅突出型墳丘墓
亀谷清 , 山根秀明